

令和元年度 施策評価表(平成30年度決算評価)

施策名: 魅力創造・発信
施策番号: 14 - 01

1 基本情報

施策名	14 魅力創造・発信	展開方向	01	まちの魅力を高め、シビックプライドの醸成を図るため、学ぶ機会を増やすとともに、戦略的に発信します。
主担当局		総合政策局		

2 目標指標

指 標 名		方向	目標値 (R4)		実績値							進捗率 (H30)
					H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1～R4	
A	尼崎市のイメージがよくなったと回答した市民の割合	↑	66.0	%	31.8	34.8	40.3	42.6	34.8	52.6		79.7%
B	尼ノ國サイトのページビュー数(月平均)	↑	14,500	回	—	—	—	—	11,336	11,904		82.1%
C	日刊5紙への尼崎市に関する記事掲載件数	↑	2,050	件	—	—	—	—	1,702	1,800		87.8%
D	学校教育と連携した事業の実施回数	↑	85	回	48	76	84	76	60	55		64.7%
E	文化財収蔵庫・田能資料館主催事業の参加者数	↑	1,700	人	1,089	1,388	1,640	1,208	1,179	1,155		67.9%

5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成30年度実施内容を記載)			
行政が取り組んでいくこと		■シビックプライドの醸成	総合戦略 ⑤
【情報発信力の強化】 (目的)まちの魅力および全庁的な情報発信力を強化し、市民や尼崎に関わる人のまちへの愛着と誇りをさらに高める。 (成果)①尼崎城の再建に加え、平成30年7月に「本当に住みやすい街大賞2018in関西」で第1位に選ばれたことや、本市の小学校給食の魅力等がメディアに取り上げられたことなど、尼崎の自慢や誇りとなることを、様々な媒体を活用し、広く発信した。また、平成30年5月から、身近なまちの話題を発信する「まちの笑顔 まちの笑顔」のコーナーをホームページ上に開設し、121件の投稿を行った。さらに、より戦略的な広報を行うために、外部の専門家の力を活用していくことについて検討した。(目標指標A) ②「尼ノ國」サイトでごきげんさんに暮らす「尼ノ民」として、日頃からまちの魅力を発見・発信している人を紹介したほか、「尼ノ学び」で学校での魅力的な授業などを紹介したことにより、多くの人の目に留まった。また、委託業者だけでなく、職員自身も取材及び記事の作成・投稿を行ったことで、月々のサイト更新回数を増やした。なお、ページビュー数のうち3分の2は大阪市や神戸市等の市外からのアクセスが多くみられた。(目標指標B) ③年間広報計画の活用や毎月の企画管理課長会で情報の共有を行うなど、庁内外へ広く発信を呼びかけたほか、発信レベルアップ研修の実施により職員の発信意欲を高め、積極的な情報発信につなげた。(目標指標C) (課題)①まちの魅力や行政情報などを、適切な時期と媒体で正確に発信できるように、引き続き庁内連携を図り、効果的に情報発信を行う必要がある。 ②「尼ノ國」サイトをより多くの人に知ってもらうため、まちの身近な活動や多くの共感を呼ぶコンテンツの工夫をするほか、Facebook、TwitterなどのSNSを効果的に活用し、同サイトへ誘導していく必要がある。 ③更なる全庁的な情報発信力の強化や、政策的な情報の効果的な発信に向け、政策調整部門との連携を強めていく必要がある。 【庁内外連携型・市民協働型のシティプロモーション】 (目的)市民自らがまちに関わり、魅力を発信する仕組みを充実させ、さらなるまちへの愛着と誇りにつながるシビックプライドの醸成を図る。 (成果)④「ひと咲き まち咲き あまがさき」のロゴマーク作成にあたって、応募や投票に市内外の多くの人に関わってもらい、庁内外に向けて封筒やイベントチラシ、名刺などでの活用を周知し実践してもらうことで、まちへの愛着と誇りをさらに高めるきっかけとなった。また、本市の魅力を市内外に向けて分かりやすく伝えるツールとして、尼崎の歴史や現代に続く文化などの魅力をまとめたPR冊子を作成した。 ⑤行政と市民がまちの魅力を共有するシティプロモーション研修やInstagram講座を外部講師を招いて実施したことで、尼崎が持つ強みの再認識や新たな魅力の発見、発信することの大切さを学び、尼ノ國Instagramのフォロワー数は昨年度の223人から659人となり、436人増、#尼ノ國等での投稿数は昨年度の延べ1,588件から延べ3,618件となり、2,030件増となった。 (課題)④PR冊子を広報ツールとして活用し、より多くの人に尼崎の魅力を知ってもらい、その魅力を市内外に広く伝えてもらうことで、市民や尼崎に関わる人のさらなるまちへの愛着や誇りにつなげていく必要がある。 ⑤さらにまちを好きな人やまちに関わる人を増やすために、市民が身近な地域の魅力や活動などを知り、市民自らが発信できるよう、仕組みづくりや、働きかけを強めていく必要がある。 【学校教育との連携による子どもたちの学習機会の提供】 (目的)学校等との連携による歴史・文化財に触れる学習機会や場の拡充を図り、身近な地域の歴史に対する関心を高める。 (成果)⑥文化財収蔵庫では歴史学習への支援や学芸員の出張授業を38校、小学3年生の「むかしのくらし学習」による来館学習を10校で実施し、田能資料館では出張授業等を7校で実施した。文化財収蔵庫が10月から休館したことにより、前年度比ではやや減となったが、子どもたちが歴史・文化財に触れる学習機会の提供に寄与することができた。(目標指標D) (課題)⑥文化財収蔵庫の工事休館中は来館学習ができないことから出張授業に力を入れて実施していく必要がある。また、歴史館機能(新博物館)での市民や子どもの歴史学習の機会提供のあり方について、引き続き検討チームで検討する必要がある。 【歴史学習の機会提供】 (目的)市民や子どもたちが歴史・文化財に触れる学習機会や場の拡充を図ることにより、身近な地域の歴史に対する関心を高め、愛着と誇りの醸成につなげる。 (成果)⑦文化財収蔵庫が開催した市民向けの歴史講座、夏休みの体験学習事業等の参加者数と田能資料館の古代のくらし体験学習会の参加者数の総数は前年度並みであり、市民や子どもたちへの学習機会の提供につながった。毎回参加者が多く集まる「水曜歴史講座」は、文化財収蔵庫の工事休館中、中央地域振興センター(開明庁舎)へ会場を移して実施するなど学習機会の維持に努めた。(目標指標E) (課題)⑦文化財収蔵庫の工事休館中は、引き続き地域へ出張して事業を実施する。また、歴史館機能(新博物館)での市民や子どもの歴史学習の機会提供のあり方について、引き続き検討チームで検討する必要がある。			

3 主要事業一覧

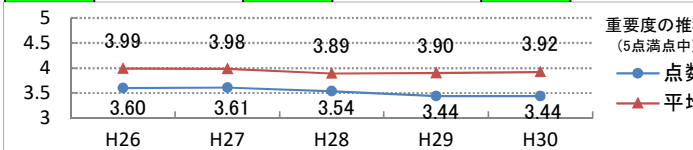
平成31年度 主要事業名	
1	情報発信推進事業(情報発信支援業務委託)
2	
3	
4	
5	
平成30年度 主要事業名	
1	都市イメージ向上推進事業
2	
3	
4	
5	
平成29年度 主要事業名	
1	
2	
3	
4	
5	

4 市民意識調査(市民評価)

項目内容	●シビックプライドの醸成
------	--------------

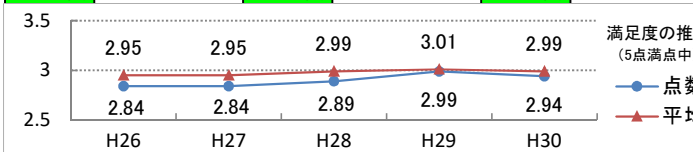
●重要度(28年度は、前期計画における「16 文化・交流」の順位)

28年度 第19位 / 20施策 29年度 第16位 / 16施策 30年度 第16位 / 16施策



●満足度(28年度は、前期計画における「16 文化・交流」の順位)

28年度 第16位 / 20施策 29年度 第9位 / 16施策 30年度 第12位 / 16施策



6 評価結果

令和元年度(平成31年度)の取組
【情報発信力の強化】 ①情報発信を効果的に行うにあたっては、様々な媒体の特性を活用し、ターゲットに応じた記事の加工やデザイン、メディア戦略、人材育成などが必要であるため、PRやコミュニケーション分野で高い専門知識や実践経験のある民間事業者から組織横断的なマネジメントや多岐に渡るアドバイス等の支援を受け、全庁的な発信力の強化を図る。 ②「尼ノ國」サイトについて、より多くの人に親しみと共感を持ってもらえるよう、身近な地域での活動を記事にするほか、話題性のある内容の取材を行うなどの工夫をしながら月3～4回は更新するとともに、市のSNSを効果的に活用して同サイトへ誘導していく。 ③効果的な情報発信に向け、政策調整部門と連携しながら情報発信のタイミングを決めたり、ホームページを含む各種広報媒体を一体的に運営することにより、ターゲットに応じた媒体の選定など、情報が伝わるように発信していく。 【庁内外連携型・市民協働型のシティプロモーション】 ④より多くの人に尼崎の魅力を知ってもらうため、PR冊子を市内各駅やショッピングモール、市内の企業などに協力してもらい設置するほか、観光のPRIにあわせて市外でも配布し、尼崎の歴史や伝統文化などの魅力を広く発信していく。 ⑤引き続き、行政と市民が共にまちの魅力や課題などを共有し、発信する大切さを学ぶ機会として研修を実施するほか、「尼ノ國」サイトやInstagramの活用だけでなく、地域担当職員と連携して、まちの魅力を発信している市民や事業者の掘り起こしを行う。 【学校教育との連携による子どもたちの学習機会の提供】 【歴史学習の機会提供】 ⑥⑦文化財収蔵庫休館中は、引き続き館外施設等を活用した事業を積極的に実施することによって学習機会を提供し、歴史館機能(新博物館)開館後の学校教育との連携や学習機会提供のあり方について検討する。

主要事業の提案につながる項目
【情報発信力の強化】 ②「尼ノ國」サイトについて、効果検証を行ったうえで、コンテンツの見直しや投稿内容の工夫などを検討していく。 小・中学生を対象としたイベント等をまとめた情報誌「まるっとアマガサキ」について、認知度や今後の必要性を調査するとともに、ウェブを活用した情報発信に徐々に切り替えるなど効果的な手法を検討する。

・平成30年度は、「尼崎市のイメージがよくなったと回答した市民の割合」が大幅に上昇した。引き続き、まちの魅力を戦略的に発信し、本市のイメージ向上に取り組んでいく。 ・情報発信に関しては、今年度実施の情報発信支援業務委託の中で、民間事業者からのアドバイス等を活用し、SNSの効果検証も含め、より効果的・戦略的な取組を目指す。 ・子どもたちの歴史学習については、学校教育における現状のカリキュラムを検証するとともに、歴史館機能(新博物館)整備とあわせて、シビックプライドの醸成に向けてそのあり方を検討していく必要がある。
--

令和元年度 施策評価表(平成30年度決算評価)

施策名: 魅力創造・発信
施策番号: 14 - 02

1 基本情報

施策名	14 魅力創造・発信	展開方向	02 尼崎城をはじめとしたまちの多様な資源を活用し、市内外の人との交流の促進をめざし、観光地域づくりに取り組みます。
主担当局		経済環境局	

2 目標指標

指 標 名		方向	目標値 (R4)		実績値							進捗率 (H30)
					H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1～R4	
A	市内の観光客入込客数	↑	280.0	万人	209.1	211.0	231.2	240.3	228.1	242.5		86.6%
B	市内の観光客入込客数のうち、ホテル等宿泊者数	↑	50.0	万人	32.7	36.5	41.1	41.2	44.0	44.8		89.6%
C	市内の観光客入込客数のうち、尼崎城入城者数	↑	H31 22.5万人 H32～ 15万人	万人	—	—	—	—	—	—		—
D	観光指針における重点取組地域の中心地の地価	↑	397	千円／㎡	372	372	375	379	383	392		98.7%

5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成30年度実施内容を記載)			
行政が取り組んでいくこと	■観光地域づくりと市内外の交流促進	総合戦略	⑤
【観光重点取組地域のまちづくり】 (目的)本市のイメージを一新する歴史・文化を取り込んだ観光施策を中心市街地である阪神尼崎駅周辺地区で展開するとともに、地域資源を活かした観光振興を進め、交流人口の増加や経済活性化、シビックプライドの醸成につなげる。 (成果)①尼崎城を含む城内地区、寺町、中央・三和商店街といった「重点取組地域における尼崎版観光地域づくり戦略」を策定し、その実現に向けた事業計画も定めた。また、開明庁舎の活用については、有識者や庁内関係者等で構成する勉強会を3回実施し、重点取組地域の面的な取組の検討を進めてきた。(目標指標A・B・C・D) ②都市のコンパクト化と地域の稼ぐ力の向上に取り組む地方再生のモデル都市32都市の1つとして尼崎市が選出され、国による集中的な支援を受けられる体制を整えた。(目標指標A・B・C・D) ③観光案内機能の強化として、観光WEBサイトの開設や、観光パンフレット・周遊促進MAPを作成した。また、尼崎観光の情報発信拠点となる、あまがさき観光案内所を設置し、観光客が情報収集やSNS等での発信ができるようAmagasaki City Free Wi-Fiを開設した。(目標指標A・B・C) ④周辺の地域資源への円滑な案内・誘導が重要であることから、市民を交えたワークショップを5回開催し、地域の意見を取り入れた形で観光誘導サインについての基本計画を策定した。(目標指標A・C・D) ⑤尼崎城の整備に係る費用や将来の維持管理費用の一部として活用するため、一枚瓦寄附(3,141口)、一口城主寄附(1,524口)、桜植樹寄附(30口)、ふるさと納税の募集を行い、合計199,702千円となる想定以上の寄付金等が集まり、尼崎城の再建がシビックプライドの醸成などに寄与した。(目標指標C) ⑥大垣市、郡上市と3都市4城連携協定を締結し、尼崎城一般公開に向けて歴史的資料の提供等を受けるなど連携強化を図った。(目標指標C) ⑦尼崎城の一般公開に向け、阪神沿線での交通広告や、観光プロモーション動画を活用したYouTube広告等、様々な媒体で広告を掲出した。また、PRイベントとして、約2万人が来場したお城EXPOへの出展や、梅田と難波で外国人も含めた観光客に対してPRを行った。(目標指標A) ⑧尼崎城址公園の整備及び内部の展示設置が完了し、平成31年3月29日より尼崎城址公園及び尼崎城を一般公開した。一般公開日より3日間のオープニングイベントでは、約26,000人が来場、約7,700人が有料入城者となるなど大盛況のイベントとなった。(目標指標A・B・C) (課題)①②③④(一社)あまがさき観光局を核とした地域一体での観光地域づくりの推進に向け、関係者(観光局・指定管理者・事業者・団体・市民)の連携を強化する必要がある。 ①②③④⑤⑥関係部局と調整のうえ、観光地にふさわしい景観やハード面の整備について財源も含めた検討が必要である。また、開明庁舎については、勉強会において大規模な投資抜きには活用は困難という結果となった。 ①②③④尼崎城の一般公開をきっかけに急激に増える地区内の交流人口の流れを把握するとともに、地区住民の生活環境の確保が必要である。(生活動線の確保、騒音対策、公園の利用方法検討など)			
【データに基づく観光プロモーション】 (目的)観光面での尼崎に対する評価と魅力の有無を検証するとともに、今後の施策展開にあたっての方向性やターゲットを定める。 (成果)⑨観光マーケティング調査として、来尼意向を市内、近隣市、主要都市それぞれ600人を対象にWEB調査したほか、大阪城と海遊館でも、外国人に対するヒアリング調査を実施し、ニーズに対する一定のデータ収集が出来た。 (課題)⑨今後も観光に関するデータを収集していくとともに、収集したデータを分析し根拠に基づいた施策を展開していく。			
【姉妹都市・友好都市との交流】 (目的)姉妹都市(アウクスブルク市)・友好都市(鞍山市)との友好交流を深めることにより、本市における国際交流の発展に寄与することを目指す。 (成果)⑩アウクスブルク市への青年使節団の派遣、鞍山市小学生使節団の受入れと両市小学生による書画交流展を実施したほか、新たな取組としてアウクスブルク市と相互に若手アーティストを派遣する文化交流を行った。また、姉妹・友好都市交流において、交流活動を行った団員が市民まつりで成果を発表し、市民へ還元する機会を提供できた。 (課題)⑩市民まつりでは、初回で参加者が少なかったため、より多くの市民が集まる機会を利用して、姉妹・友好都市交流の成果を発表できるように模索し、特に若者や親子をターゲットに姉妹・友好都市を知ってもらう必要がある。鞍山市との小学生交流においては、ホームステイ先での交流が十分とは言えない状況であったほか書画交流事業の応募数が減少した。そのような中で、いずれも、対象者を小学生に限定せず新たな分野の交流も検討していくなど新規の方策を検討していく必要がある。			

3 主要事業一覧

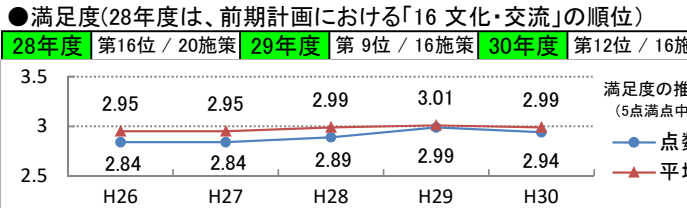
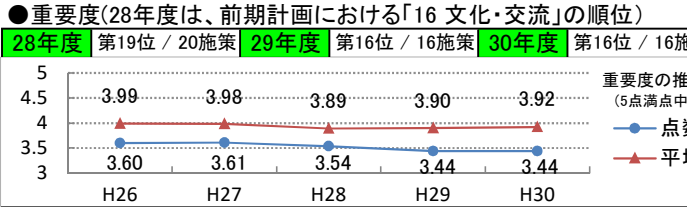
平成31年度 主要事業名	
1	あまがさき観光局補助金(観光地域づくりの推進)
2	姉妹・友好都市交流関係事業((姉妹都市提携60周年記念事業))
3	
4	
5	
平成30年度 主要事業名	
1	尼崎版観光地域づくり推進事業
2	尼崎版DMO設立事業
3	
4	
5	
平成29年度 主要事業名	
1	観光地域づくり推進事業
2	
3	
4	
5	

令和元年度(平成31年度)の取組	
【観光重点取組地域のまちづくり】 ①来訪者の周遊を促す上で必要と考えられる整備を関係部局と調整のうえ、国庫補助事業に位置付けられるものかどうかも含めて検討していく。 ①③インバウンド向けに多言語アプリの活用などに取り組み、訪日外国人を含む観光客の周遊促進につなげていく。また、阪神尼崎駅と城内地区や寺町の中間地点となる開明庁舎について、観光客の周遊につながる活用方法を短期的視点と中長期的視点の両面から検討を行い、速やかな利活用を進めていく。 ①③⑥⑦尼崎城年間入城者数22.5万人(うち有料入城者数15.75万人)の達成に向け、城址公園等で各種イベントが実施されていくよう、関係者(観光局・指定管理者・事業者・団体・市民)と連携した取り組みを進める。 ④平成30年度に策定した「阪神尼崎駅周辺地区観光誘導サイン整備基本計画」に基づき、地区内の周遊を促す観光案内情報板を設置する。 ⑤市内小学生の尼崎城への無料招待を行い、家族等での来城を促進するとともに、入城した市民のシビックプライドの醸成につなげていく。	
【データに基づく観光プロモーション】 ⑨戦略で定めるターゲットの獲得に向け、必要となるデータやその収集方法等を検討するとともに、具体的かつ効果的に取組を進めていくため、観光局における外部人材の活用に向けた検討・調整を進めていく。	
【姉妹都市・友好都市との交流】 ⑩姉妹都市提携60周年記念行事に代表団、市民団、高校生吹奏楽団を派遣し、アウクスブルク市及び同市民と交流を深める。これまでの小学生使節団の鞍山市派遣を青少年使節団に改め、青少年を対象としたテーマ別交流を実施する他、対象者や作品を拡充した青少年芸術交流事業を実施する。その他、「みんなのサマーセミナー」で講義を行う等、より多くの市民が集まる機会を利用して姉妹・友好都市交流活動の紹介や団員による報告を行う。	

主要事業の提案につながる項目	
【観光重点取組地域のまちづくり】 ①～⑧尼崎城開城後の観光地域づくりにかかる課題やニーズを踏まえた施策の必要性を検討する。	

4 市民意識調査(市民評価)

項目内容	●観光地域づくりと市内外の交流促進
------	-------------------



6 評価結果

- ・尼崎城については、一枚瓦寄附や一口城主寄附などで多数の寄附をいただく中で、平成31年3月29日より一般公開することができた。また、(一社)あまがさき観光局が主体となって、その公開にあわせ、観光案内所を設置した。
- ・阪神尼崎駅周辺地区の観光案内情報板などの観光誘導サインについては、今後速やかに主要箇所から設置していく。
- ・観光地域づくりの推進にあたっては、平成30年度に策定した「重点取組地域における尼崎版観光地域づくり戦略」に定める指標を活用して、しっかりと進捗管理を行う。
- ・そのため、経済部を事務局として庁内関係部局や関係団体による推進会議を立ち上げるとともに、関係者が速やかにイベント情報等を共有できる仕組みを構築するなど、連携強化を図っていく。
- ・また、(一社)あまがさき観光局が民間組織としての強みを最大限に活かせるよう、取組を行っていく必要がある。
- ・開明庁舎については、大規模な投資は行わないことを前提として、引き続き関係者と連携して、短期的な利活用について速やかに取り組んでいく。

令和元年度 施策評価表(平成30年度決算評価)

施策名: 魅力創造・発信
施策番号: 14 - 03

1 基本情報

施策名	14 魅力創造・発信	展開方向	03	まちの魅力と活力を高めるため、地域の文化資源の活用を促進するとともに、新たな文化芸術活動の担い手を育成します。
主担当局		総合政策局		

2 目標指標

指 標 名			目 標 値 (R4)		実績値							進 捗 率 (H30)
	方 向	H25			H26	H27	H28	H29	H30	R1～R4		
A	尼崎市総合文化センター及び本市が実施した文化芸術事業への参加者数	↑	349,000	人	318,952	307,903	314,915	302,975	304,420	287,010		82.2%
B	尼崎市総合文化センター稼働率	↑	55.0	%	41.0	40.0	46.0	46.0	45.0	42.5		77.3%
C	若者支援を対象にした文化芸術事業への参加者数	↑	4,950	人	425	362	2,226	3,515	3,583	4,369		88.3%
D	尼崎観光特使来庁回数(出席数)	↑	18,000	回	1,842	3,467	5,611	8,282	9,675	10,732		59.6%
E												

5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成30年度実施内容を記載)			
行政が取り組んでいくこと	■新たな魅力づくりによる文化振興	総合戦略	⑤
【文化活動の場づくり】 (目的)(公財)尼崎市文化振興財団を文化振興の中核と位置付け、市民の文化活動を推進することで、本市文化の向上発展を図り、まちの魅力と活力を高める。 (成果) ①(公財)尼崎市文化振興財団及び尼崎市総合文化センターの今後のあり方について財団と協力して検討を進めるなかで、施設の整備に向けて民間活力の活用について調査を実施した。 ②総合文化センターにおいて開催した音楽・バレエ・演劇・古典芸能などのホール事業や市展や文芸祭などの文化振興事業、本市の文化芸術事業を通じて市民の文化芸術体験や活動を支えた。(目標指標A・C) ③文化振興を進めていくくみづくりとして、文化ビジョンに基づく事業の評価を開始するとともに、文化振興に取り組む機運や寄附文化の醸成を図るため、新たに文化振興基金を設置した。 ④「第7回近松賞」受賞作品について、審査員の平田オリザ氏主宰の劇団「青年団」に制作を依頼し、上演に向けた準備を始めた。 ⑤没後10年を節目に郷土画家である白髪氏の大作群を展示する企画展を行い、2,508人が来場した。(目標指標A) ⑥市民芸術賞1名と文化功労賞2名を顕彰した他、新たに設けた若手芸術家を応援する文化未来奨励賞を1名選定した。 (課題) ①③本市の文化振興を進めていくため、文化事業の見直し、施設の耐震化・老朽化への対応、財団の機能強化、効果的・効率的な運営などについて引き続き今後のあり方を検討するとともに、文化事業の評価に取り組み、制度の熟度を高めていく必要がある。 ②総合文化センター等で実施する文化芸術事業について、より広く優れた文化芸術に親しむ機会を提供できるよう、事業内容や実施方法の見直し・再構築に取り組んでいく必要がある。(目標指標A・B) ④本市の取り組みについて市外へPRするとともに集客を図っていく必要がある。 ⑤本市の文化的なイメージの向上を図るため、白髪氏の作品や人物像を継続して全国にプロモーションしていく必要がある。 ⑥市民に優秀な作品を目にする機会を提供するため、文化未来奨励賞の受賞者の発表の場や方法を検討する必要がある。 【若者の夢の応援】 (目的)若年層をはじめとした市民に芸術や地域文化を発信し、その魅力に触れてもらう機会の充実を図ることで、次代の担い手を育成する。 (成果) ⑦「ティーンズサポートチケットPR事業」では、13歳から19歳を対象に尼崎市総合文化センター等で実施する公演等を500円で観賞できる仕組みに加え、1グループ5人までの応募を可能とする申し込み方法を導入したが利用実績はなく、応募できる公演数も減少する等、応募者数は67人と平成29年度に比べ減少した。(目標指標C) ⑧市・山岡記念財団・教育委員会の3者主催、尼崎市文化振興財団共催で、音楽家の大植英次氏が指導を行う公開レッスン＆コンサートを実施した。参加学生や来場者に対して、音楽のすばらしさを分かち合う機会を提供できた。(目標指標C) ⑨「あまらぶアートラボ運営事業」では、展覧会を5回、関連イベントを11回、トークイベントを7回実施した。夏休みのグループ展では、来場者が写真を撮りたくなるような工夫を凝らし、SNS等で情報発信しやすい展示内容となった。また、来場者が作品に触れながら施設を周遊して楽しむ展覧会を開催した。その他、姉妹都市であるドイツのアウクスブルク市と若手アーティストを相互に派遣し、世界へ飛躍するチャンスを提供できた。尼崎出身の尼子騷兵衛氏によるトークイベントや写真家の小林哲朗氏によるワークショップを開催し、定員を超える応募があった。(目標指標C) ⑩「尼崎落研選手権」は初参加を含む11大学の落語研究会が腕を競いあい、若者のチャレンジを応援できた。地元ケーブルテレビで番組化した他、参加大学が小学校で授業を行い、子ども達が伝統芸能に触れる機会を提供した。また、市民まつりで出場学生の寄席を披露した。(目標指標C) ⑪アニメ「忍たま乱太郎」ゆかりの地名をめぐるファンへのおもてなしとして、「光の尼崎観光特使」を導入した。これまでの「影の尼崎観光特使」は、市役所の窓口を訪れた方の来庁回数が10,000回に達し、登録者は7,000人を突破し新聞記事に掲載される等、市の取り組みを発信できた。(目標指標D) (課題) ⑦公演内容のPRにおいて、更に10代の人々が身近に感じ、興味を持ってもらうための工夫をしていく必要がある。 ⑨全ての部屋を使う展示が多く、ワークショップなどのイベントの回数が減少したため、今後、地域の生涯学習プラザなどに出掛け、A-Lab以外の場所でのイベントの開催の実施を検討していく必要がある。 ⑩開催日が例年より1週間程度遅くなり、参加大学数が減少したため、早期に日程調整する必要がある。 ⑪「影の尼崎観光特使」は、目標となる合計30回の来尼を達成している方も多いため、新しく導入する「光の尼崎観光特使」で引き続き、尼崎市を訪れた方々に本市のPRを担っていただけるよう発信方法を検討する必要がある。			

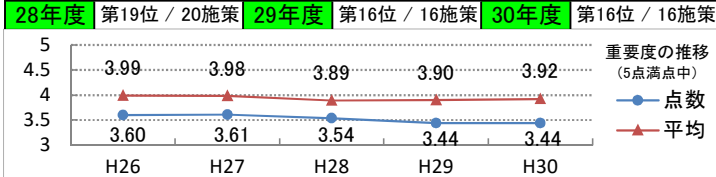
3 主要事業一覧

平成31年度 主要事業名	
1	郷土画家「白髪一雄」発信プロジェクト事業
2	
3	
4	
5	
平成30年度 主要事業名	
1	若者の夢創造・発信事業
2	
3	
4	
5	
平成29年度 主要事業名	
1	
2	
3	
4	
5	

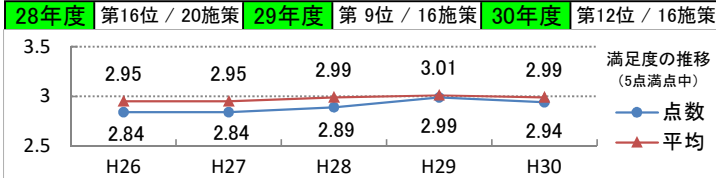
4 市民意識調査(市民評価)

項目内容	●新たな魅力づくりによる文化振興
------	------------------

●重要度(28年度は、前期計画における「16 文化・交流」の順位)



●満足度(28年度は、前期計画における「16 文化・交流」の順位)



6 評価結果

・文化振興に関しては、「尼崎市文化未来奨励賞」の創設や「あまらぶアートラボ運営事業」の実施による、若者の夢とチャレンジを応援する取組など、文化ビジョンに定める取組を進めることができた。

・引き続き、尼崎城など新たな地域資源も活用した文化施策に積極的に取り組むとともに、市内外に情報発信していく。

【文化活動の場づくり】
①財団等と引き続き協議・調整を進め、文化事業の見直しや耐震化への対応など、今後のソフト・ハードのあり方について検討を進める。
②③文化振興を着実に推進していくため、文化事業の評価や、文化振興基金の運用に取り組む。
④近松の里で「近松賞」のPRを行うなど、戦略的かつ効果的な情報発信を検討していく。
⑤白髪作品を所蔵し地域での影響力を持つ「青森県立美術館」で本市所蔵作品展を開催する他、「東京オペラシティアートギャラリー」で開催される白髪展に協力していく。
⑥文化の担い手である子ども達を対象としたプログラムを検討し、市内小学校でワークショップや公開制作等を行うよう調整する。

【若者の夢の応援】
⑦複数の媒体での広報に努めるほか、若者の興味を引くように、SNS等を通して広報の拡大に努める。
⑨市民が芸術に親しめる機会を提供するため、ワークショップ等のイベントを市内全域で展開する他、お城に使われている瓦を楽器にした音楽コンサートや尼崎市ゆかりの人物を紹介する展覧会、アウクスブルク市との交流展等、尼崎ならではのコンテンツを活用していく。あまらぶアートラボ運営業務の一部を外部委託し、効率的に事業を実施していくとともに、広報を強化し、来場者がSNS等で展覧会情報を発信しなくなるような展示内容を検討していく。
⑩実施日について、連続出場している大学が参加しやすい日程を調整していく。市内小学校の他に、注目を集める尼崎城に関連して実施されるイベント等、学生寄席を披露する機会を検討する。
⑪登録者の増加を図るため、新規の登録時に提供するカードのデザインを新たにし、継続して市外から本市を訪れる方や交流人口を増やす運用方法を検討していく。

主要事業の提案につながる項目

令和元年度 施策評価表(平成30年度決算評価)

施策名: 魅力創造・発信
施策番号: 14 - 04

1 基本情報

施策名	14 魅力創造・発信	展開方向	04	まちの歴史をともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学習機会の充実に取り組みます。
主担当局		教育委員会		

2 目標指標

指 標 名		方向	目標値 (R4)		実績値							進捗率 (H30)
					H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1～R4	
A	歴史や文化財等に関するボランティア活動参加延べ人数	↑	4,792	人	2,746	3,204	3,629	3,699	3,187	2,566		53.5%
B	文化財収蔵庫での展示会の観覧者数	↑	20,000	人	1,228	10,579	11,397	13,081	12,721	8,309		41.5%
C	田能資料館での展示会の観覧者数	↑	28,000	人	12,600	11,685	29,625	26,003	28,782	23,294		83.2%
D	地域研究史料館相談利用(レファレンス)人数	↑	2,345	人	1,877	2,201	2,442	2,495	2,345	2,330		99.4%
E	地域研究史料館講座・自主グループ参加人数	↑	1,212	人	870	848	820	977	1,167	1,076		88.8%

5 担当局評価

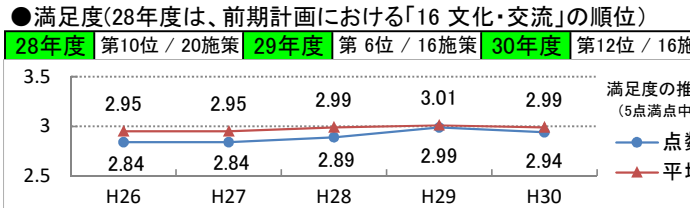
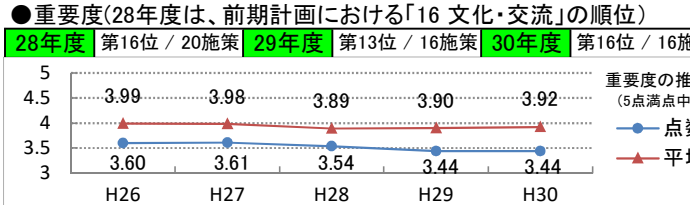
これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成30年度実施内容を記載)			
行政が取り組んでいくこと		■歴史遺産等の保存と活用	
【歴史を調べ学ぶことができる拠点施設の整備】 (目的)地域の歴史を調べ、学ぶことができる拠点施設(歴史館機能(新博物館))を整備する。 (成果)①文化財収蔵庫を旧博愛幼稚園の仮事務所に移転させ、移転後に整備工事に着手することができた。また、歴史館機能(新博物館)のコンセプトや展示活動の概要等について検討を進め、基本的な考え方の整理を行うことができた。 (課題)①歴史館機能(新博物館)の開館を市民にPRするとともに、開館の準備を進め、開館後の運営体制を検討する必要がある。		総合戦略	
【文化財収蔵庫における文化財・歴史資料の調査・収集・保存】 (目的)文化財や歴史資料等の調査・収集を進め、地域資産として有効活用できるよう保存を図り、まちの魅力発信に寄与する。 (成果)②市内の指定・登録文化財件数は市指定が3件増えて計113件、文化財収蔵庫が収蔵する歴史資料等は7点増えて27,168点となり、貴重な地域資産の保存に貢献することができた。 (課題)②市民共有の歴史遺産である文化財等を次世代に継承していくための体制の整備と専門的な人材の確保が必要である。		⑤	
【文化財収蔵庫・田能資料館における文化財・歴史資料の公開・活用】 (目的)文化財や歴史資料等を展示公開することで、尼崎の歴史や文化財への関心を高め、シティプロモーションにも貢献する。 (成果)③文化財収蔵庫が開催した展示会の観覧者数は、10月以降休館したため前年度には及ばなかったものの、一日平均では前年度より増え、田能資料館で開催している展示会とともに、文化財や歴史資料の公開・活用につながった。文化財収蔵庫休館中は、総合文化センター美術ホール等を活用して展示会を実施した。(目標指標B・C) (課題)③文化財収蔵庫休館中の事業実施と歴史館機能(新博物館)での文化財・歴史資料等の公開・活用のあり方について検討が必要である。			
【地域研究史料館における歴史資料の保存と活用】 (目的)所蔵史料の整理・公開を進め、地域の歴史を学ぶ環境を整えていく。 (成果)④平成30年度末現在所蔵点数35万9,800点で年度中の新規受け入れ8,300点、このうち3,000点を年度中に整理・公開した。歴史館機能(新博物館)の整備に合わせ史料の整理・見直しを継続し、またデジタル・アーカイブ化の調査検討・準備作業を進めた。 ⑤史料利用・公開の分野では引き続きレファレンスサービスを重視し、年間相談利用人数は高水準を維持した。(目標指標D) ⑥講座「市史を読む会」等開催を継続し延べ1,076人の参加を得た。加えて市政出前講座等の出講が年度中に65件82回を数えた(うち尼崎城関連約40件)。また、尼崎城内部展示(4階手ぬぐい展示関係等)の検討・準備にも協力した。(目標指標E) (課題)④歴史館機能(新博物館)整備に向けた史料の整理・見直しを継続し、デジタル・アーカイブ化の調査検討・準備作業を進める。史料整理の成果の情報発信を強化するとともに、公害関係史料など未整理・未公開の重要史料整理の具体的な方策を検討する。 ⑤公文書館事業の本格実施、歴史的公文書等公開・活用の充実に向けて、組織のあり方等を検討する必要がある。			
【文化財収蔵庫・田能資料館における市民ボランティアとの協働】 (目的)ボランティアや市民グループ等と連携して市民が歴史や文化財に触れる機会を提供し、歴史遺産の保存と活用に貢献する。 (成果)⑦文化財収蔵庫で学芸員と協働で活動している市民ボランティアの活動者数は休館と仮事務所への移転のため前年度より減り、田能資料館では行事日程の都合等もあり参加人数が減ったが、協働の取組みは継続的に進めることができた。(目標指標A) (課題)⑦文化財収蔵庫の工事休館中の市民ボランティアとの連携・協働について検討と、歴史館機能(新博物館)開館後の市民協働のあり方について検討が必要である。また、田能資料館では、市民ボランティア活動の活性化を図る必要がある。			
【地域研究史料館の史料整理・活用における市民ボランティアとの協働】 (目的)歴史資料等への関心を高め、親しみや愛着を醸成していくため、多くの人々が事業に深く関わる機会を提供する。 (成果)⑧作業回数487回、参加実人員84人、延べ618人。作業メニュー・受入日等を整理しウェブサイトを見直したことで、多様な作業体験機会を作り成果を得ることができた。関連機関の協議会や研究誌、SNS等を通じて成果の発信に努めた。(目標指標A) (課題)⑧実施事業における各ボランティア作業の位置付けや成果等を整理し、参加者や外部に対してわかりやすく提示するなど成果を効果的に発信していく必要がある。			
【まちづくり活動と連携した歴史遺産の保存と活用】 (目的)史跡・文化財等を活かしたまちづくり活動を進める市民グループと連携・協力して、貴重な地域資産の保存・活用を図る。 (成果)⑨富松城跡の保存・活用に協働で取り組んでいる市民グループと共催で開催した歴史ウォークは69人の参加者があり、富松城跡や尼崎城跡の効果的なPRとなり、歴史遺産の情報発信につながった。 (課題)⑨富松城跡の効果的な周知と、保存活用の進め方を市民グループや学校等と連携して検討していく必要がある。			

3 主要事業一覧

平成31年度 主要事業名	
1	城内まちづくり整備事業(新博物館開館準備事業)
2	
3	
4	
5	
平成30年度 主要事業名	
1	城内まちづくり整備事業
2	
3	
4	
5	
平成29年度 主要事業名	
1	城内まちづくり整備事業
2	田能遺跡サポーター養成事業
3	
4	
5	

4 市民意識調査(市民評価)

項目内容	●歴史遺産等の保存と活用
------	--------------



6 評価結果

・歴史館機能(新博物館)開館に向けては、公害と向き合ってきた歴史など尼崎の近現代史についての効果的な展示を含め、シビックプライドの醸成に資するような、常設展示の検討を行う。また、観光地域づくりとも連携した展示企画やソフト事業を検討していく。